

V 鳥取県でのカラマツ育苗・植栽技術の確立

(実施期間：令和元年度～4年度 予算区分：県単 担当：滝田茉衣子)

1 目的

カラマツは初期成長が早く、材の強度に優れることなどから本県の新たな造林樹種として県内で注目されている。本来カラマツは信州以北の主要な造林樹種であるため、本県に適した育苗及び植栽技術を確立することを目的とする。

2 実施概要

(1) 方法

カラマツを植栽する際の基礎資料とするため、標高別（鳥取市国府町岡益試験地 標高 100m 前生樹マツ、鳥取市高路試験地 標高 307m 前生樹マツ、日南町霞試験地 標高 442m 前生樹スギ）に設けた県内 3カ所のカラマツ植栽試験地について、植栽後から 3 成長期終了後までの樹高成長及び地際直径を調査した。

(2) 結果

カラマツ植栽木の 3 成長期後の樹高の平均は、試験地によりばらつき (105.03cm～200.25cm)、標高 442m の日南試験地の成長が最もよい結果となった (図 1)。

地際直径の平均は、試験地によりばらつき (28.97mm～17.31mm)、標高 442m の日南試験地の成長が最もよい結果となった (図 2)。

日南試験地では一部にイノシシ等の獣害による被害がみられたが、植栽 3 年目の樹高、地際直径ともに成長が良好であった。今後も継続して調査する予定である。

3 結果の図表と研究の様子

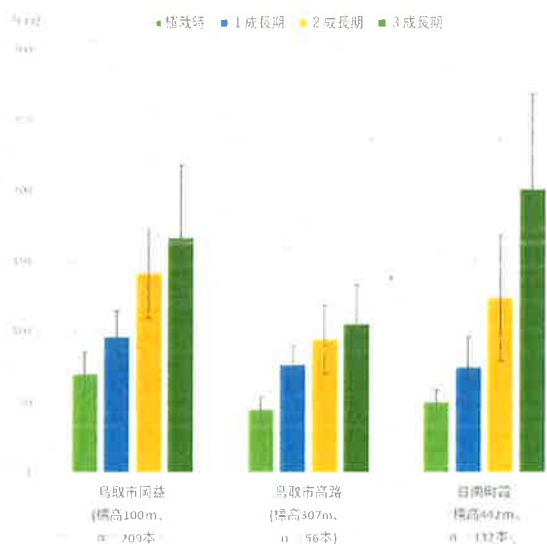


図1 標高別カラマツの樹高成長経過

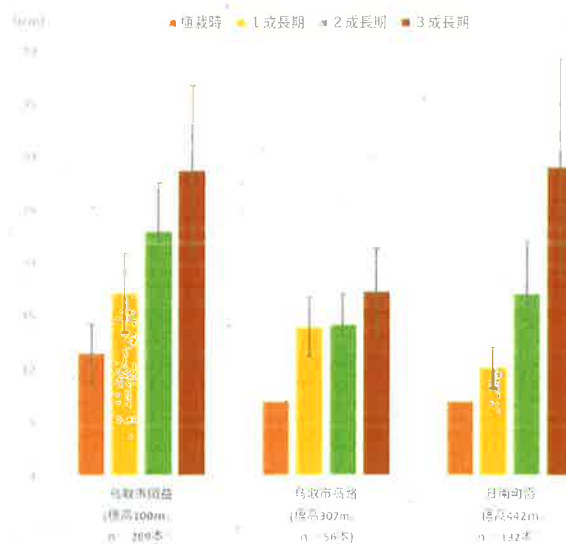


図2 標高別カラマツの地際直径成長経過